



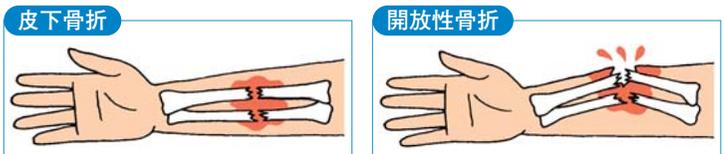
**内容品**



手当ての流れ

手順 **1** 状況の判断

皮下骨折(骨の露出なし)か開放性骨折(傷から骨が見える、突き出ている)かを見分ける。



手順 **2** 固定

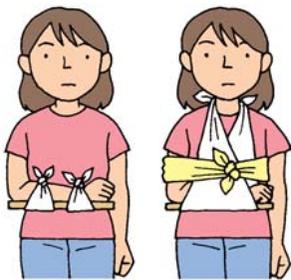
**皮下骨折**

●前腕部

- 骨折部位に副木を当て、前腕を固定する。
  - 三角巾で腕をつるす。
- ※包帯などで体に固定するとより安定する。

●下肢部

- 皮膚と副木のすき間にタオルやガーゼなどのあて物を当てる。
- 足首、ひざの関節が動かないように、三角巾や包帯でしばり固定する。



**固定時の  
しばり方に注意**  
血行を妨げる恐れがあるため、締めつけすぎに注意する。



用意するもの **ガーゼ** **三角巾** **タオル** **包帯** **副木**

**開放性骨折**

- 傷口にガーゼなどを当て、その上から包帯を巻き固定する。
- 骨が突き出ていたら、そのまわりにガーゼなどを積み重ね、骨を圧迫しないように巻く。
- 突き出た骨は無理に戻さない。

用意するもの

**ガーゼ** **三角巾** **包帯** **副木**

**副木の代用**

雑誌、段ボール、傘など直接皮膚に当たる場合には、包帯や三角巾などを巻いてから活用する。



手順 **3** 状況観察

ショックや痛みによる顔面蒼白、震え、冷や汗そうはくが見られたら、アルミシートや毛布などで保温する。

用意するもの

**アルミシート**